

ご寄付のお願い

2010年1月1日から9月30日までに、ご寄付頂いた皆様方のお名前です。ありがとうございました。

- 川野範子様
- 佐竹良武様
- 佐竹典子様
- 有政肇様
- 小石隆一様
- 小石明子様
- 柴山良彦様
- 上野健太郎様
- 山崎要一様
- 岩松洋一様
- 由村和之様
- 西川 守様
- 興南工業株式会社様 (募金箱)
- 溝田紀代子様
- 池田琢哉様
- 丸山慎介様
- 鉾之原綾子様
- 永迫博信様
- 上野凌太様
- 蘭牟田直子様
- 栄村まみ様
- 下原怜子様
- 新保恵梨子様
- 宮園亜澄様
- 西川イツ子様
- 医療法人あゆみ会様
- 鹿児島県小児科医会様
- 日本保育園保健協議会様
- フロンティアナイト様
- 宝納酒会様
- 社団法人鹿児島県薬剤師会様
- 財団法人 毎日新聞西部社会事業団様
- 国分酒造協業組合様
- イオン鹿児島 ショッピングセンター様
- ブルデンシャル生命保険株式会社 鹿児島支社様
- 宝納酒店様 (募金箱)



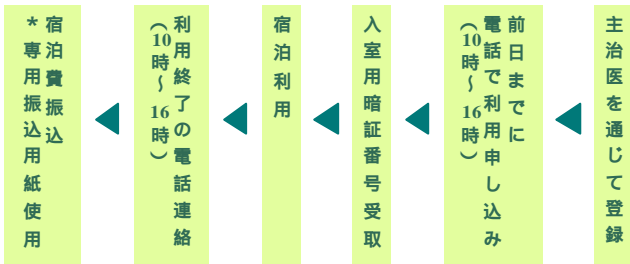
認定NPO発足に伴う変更事項：
一般寄付・賛助会費は税控除の対象となりますので、領収書をお送り致します。

- 一般寄付 本法人の活動意義をご理解頂き、ご寄付を賜りますようお願い致します
現金收受の方法は、事務局へお問い合わせ下さい
 - 個人賛助会員 年会費 …… 12,000円
 - 法人賛助会員 年会費 …… 120,000円
 - 募金箱 募金箱をお置きいただける店舗・企業・他を募集しております
ご賛同いただける方は、事務局までご連絡下さい
- 本法人の活動意義をご理解頂き、活動を支援いただける個人又は企業の入会をお願いしております
入会申込書を事務局へお送り下さい

「鹿児島ファミリーハウス」のご利用方法

- 鹿児島市内の病院に通院、入院する患児とご家族のための宿泊施設です。
- 基本的な電化製品・台所用品・寝具 他のご用意があります。
- 1,000円 / 1泊 (宿泊人数は何人でもOK)でご利用できます。
- セルフサービスが基本 (清掃、ゴミの始末、その他)です。
- ボランティアの人達によって維持管理して頂いております。ご協力を。

ご利用の流れ



* (注) 要 / 事前登録 / ご希望の方は主治医にご相談下さい。

篤志家のご協力の下に鹿児島市鴨池2丁目 (鴨池電停から徒歩1分) と、荒田2丁目 (荒田八幡電停から徒歩5分) にあるビルの部屋(1K、1DK)をご提供頂き、平成19年7月からNPO法人子ども医療ネットワーク運営の鹿児島ファミリーハウスが誕生しました。

お問い合わせ / 子ども医療ネットワーク事務局 TEL 099-275-5354

お問い合わせ先

認定特定非営利活動法人子ども医療ネットワーク本部

〒890-8520 鹿児島県鹿児島市桜ヶ丘8-35-1
鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内
電話：099-275-5354

認定特定非営利活動法人子ども医療ネットワーク事務局

電話：099-275-5354 / FAX:099-265-7196

活動について・お約束

活動 離島やへき地など、小児医療の専門医が少ない地域に住んでいる子どもさんが、長期間の入院が必要な病気にかかった時に、ご家族を含めて安心して闘病できるように支援する事を目的に設立されました。又、難病等にかかり遠方から来院なさるおこさんとそのご家族にも広く門戸を開き、病気に対する不安や疑問を軽減し、外泊あるいは通院にかかる負担を軽減する為の事業を行います。すべてが皆様の共感とご協力のもとに運営されています。

お約束 皆様からお預かりした個人情報は
- 会員のご案内の発送以外の目的で使用する事はありません。
- ご本人の同意なく第三者に開示・提供する事はありません。

ホームページは随時更新中です
<http://www.kodomo-iryu.org/>

会員の方々と事務局を結ぶ……

こねっと通信

2010.AUTUMN VOL.7

- ファミリーハウス
- 健康相談会 巡回診療
- こども救急箱
- ふれあいコンサート
- その他



Save the Children
私達は離島・へき地の
難病児を支援します

認定NPO法人 となりました

平成22年10月1日 国税庁認定

認定NPO法人への寄付は、
税額控除の対象となります。



認定特定非営利活動法人 (認定NPO)
子ども医療ネットワーク

平成21年10月 自費出版南日本企画賞受賞

平成20年11月 南日本文化賞受賞



すべてのこどもに適切な小児医療と
快適な闘病生活を

既に終了した相談会

平成22年6月12日(土)・喜界島
平成22年7月17日(日)・徳之島

会員の方々と

事務局を結ぶコーナー

こねっと通信

こども医療ネットワーク

2010. AUTUMG Vol.7



今回が初めての利用で友人の紹介で急遽ドクターに依頼し利用できました。何でも揃っていても産後の身体をリラックとして充分休む事ができました。新生児センターへ毎日通うのも距離的にも近くとても便利でした。私のように離島から通う人にとってはとても便利でとても有り難いと思います。こころよくこの場を提供してくれた事に深く感謝します。娘の入院はまだ続きませんが、一旦島に戻り、再度利用させて頂きたいと思っております。本当に有り難うございました。

本誌掲載のファミリアハウス「声」は、ホームページに掲載されています。

その他の相談会につきましては、日程を調整中です。詳しくはホームページでご確認下さい。



ファミリアハウス「声」

(ハウス常設の寄せ書きノートから)紹介します)

今回が初めての利用で友人の紹介で急遽ドクターに依頼し利用できました。何でも揃っていても産後の身体をリラックとして充分休む事ができました。新生児センターへ毎日通うのも距離的にも近くとても便利でした。私のように離島から通う人にとってはとても便利でとても有り難いと思います。こころよくこの場を提供してくれた事に深く感謝します。娘の入院はまだ続きませんが、一旦島に戻り、再度利用させて頂きたいと思っております。本当に有り難うございました。



便利・ファミリアハウス

一歳の娘も一緒に作ったので離乳食を作る調理器具があるので助かりました。今回は娘の調子が悪く、発熱してしまっただけですが、近くにコンビニがあるので、氷を買って冷やしてやり三時間で何とか落ち着き安心しました。

認定NPO(特定非営利活動)法人

「認定」報告

平成22年10月1日 国税庁から認定NPO法人として認定されました。理事長「挨拶」平成17年にスタートしたNPO法人こども医療ネットワークは、役員をはじめとする小児医療従事者と多くの支援者のおかげで、難病を持つ子どもたちやそのご家族のための活動を続けてくる事ができました。活動を通じて新たな出会いを経験し、日本を次代を担う子どもたちの健康を支えようとする気持ちが大切かを再確認しました。



講演会の聴衆は20名程度と少なかつたが、保育園の保育士や学校の保健教諭などに参加していただけた。参加していただいた人からは、わかりやすく話があったからもつとたくさんの人に聞いてもらえればよかったのにと、声をいただいたのは社交辞令があつたとしてもうれしかった。これまでの講演会も参加者は20名前後であり、今後もう少し何らかの工夫をしたいと思う。

その結果として、このたび、平成22年10月1日から「認定NPO法人」として認定されました。数あるNPO法人の中でも厳しい審査に合格した176法人(平成22年9月現在)しかありません。寄付金が非課税になることが最も大きな利点ですが、それだけ社会的責任も重くなると思えます。人生の後半を生きていく者として、できるだけ多くのメッセージを子どもたちに伝えたいと努力する所存です。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。理事長 河野嘉文

「こども健康相談会」喜界島報告書から

ご寄附

「こねっと通信」は、会員の方々と本部・事務局を結ぶコーナーです。ご意見・ご要望をドンドンお寄せ下さい。《宛先》 〒890-8520鹿児島市桜ヶ丘8-35-1 鹿児島大学医学部・歯学部附属病院 小児診療センター小児科内 「こねっと通信」係 E-mail info@kodomo-iryu.org (事務局)

ご連絡

こども救急箱(94)

〈 やせ 〉

NPO法人こども医療ネットワーク会員 玉田 泉 (今給黎総合病院小児科)

2010年7月19日南日本新聞掲載

子どももの「思春期」は急性に身長体重が増加し、体つきも大人っぽくしかりとしてくる大切な時期です。この時期には十分な栄養と睡眠、適度な運動が必要となります。

飽食の時代とされる近年、肥満が問題視される一方、若い世代には不健康な「やせ」が広がっています。2005年の国民健康栄養調査では6歳から14歳の男子の20・3%が女子の18・1%がやせ気味かやせ過ぎでした。メディアに登場するやせ過ぎのアイドルがきっかけで、子どもたちも「自分も太っているやせたい」と考えます。また、ストレス社会を生きていくために、食べないことで自己を表現する「神経性食思不振症」という病気もあります。しかし、成長期の低栄養は非常に危険であり、女の子は月経も止まります。

お子様の写真募集 「こねっと通信」表面に掲載させて頂けるお子様の写真を募集しております。

上記住所にお送り頂くか、E-mail info@kodomo-iryu.org まで

「こども救急箱」の記事は2006年4月から隔週に掲載されています。こども救急箱「平成22年10月25日に第100号が掲載されます」が、とても重要で、不健康な食生活を早めに矯正してあげることが、やせていることで病院の診断を受け、治療の必要性が認識される例はほんのわずかです。日常的に繰り返す不健康な食生活を早めに矯正してあげることが、とても重要で、